

令和6年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立くすのき小学校

校 長 芝田 孝人

Ⅰ 学校経営方針

四條畷市教育振興基本計画(令和4年1月)には、本市の教育の長期的かつ普遍的な将来像(夢)として、基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」が掲げられている。

この基本理念に基づき、本校の子どもたちには、まず、自分自身のことを大切にしたいということを伝えたい。その上で、自分の周りにいる人たち、友達や保護者の皆さん、学校の先生や地域の皆さんなど、自分に関わりのある人達のこととも考えられる人に成長して欲しいという思いがある。そのために必要な力を本校で育成していくに当たり、令和6年度の学校教育目標を次のように定めた。

【学校教育目標】

「ウェルビーイング(Well-being) みんなの幸せを実現できる くすのき小」

～ 身体的、精神的、社会的「幸福」の視点から ～

- ・身体的「幸福」… 体力向上、病気やけがの予防などに努め、身体が健やかであること
- ・精神的「幸福」… 人とのつながり、安心感、楽しい、感動、感謝などポジティブな感情を持つこと
- ・社会的「幸福」… 自分の役割や存在価値を自覚し自己肯定(有用)感を感じ、将来の夢や希望を持つこと

今年度は、上記「学校教育目標」を実現するため下記の7つの観点を学校経営の中心的な方針としたい。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(教員の授業力向上)
- ・発達支持的生徒指導の視点を大切に「くすのきスタンダード」の深化(不登校の未然防止)
- ・専科教員を中心とした、体育科のカリキュラムの工夫と体育的行事の充実による体力の向上
- ・GIGAスクール構想に基づく、情報活用能力の育成や個別最適・協働的な学びの充実
- ・人権教育や道徳教育の視点を大切に、多様な考えを認め合える豊かな心の育成
- ・子どもを中心に据えた家庭・地域・学校の連携の充実(学校外施設との連携強化)
- ・教員の働き方改革の推進による、子どもと向き合う時間の確保・教師力向上

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	・子どもたちが生き活きと笑顔で活動できる安心安全な学校
★めざす子ども像	・しっかりと考え、主体的に活動できる子 ・相手の気持ちに寄り添い、行動することができる子 ・粘り強く取組み、やり切ることができる子
★めざす教師像	・子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ・主体的に課題を捉え、広い視野を持って解決できる教師 ・人間愛にあふれ、明るく前向きに仲間とともに学び続ける教師

3 学校の現状（よさと課題）

（1）子どもたちの実態

本校の児童は、元気で明るく素直な児童が多い。業間や昼休みなどには、友だちと一緒に運動場を走り回る姿が印象的である。また、友だちに親切に優しく接することができる児童も多くいる。

しかし、じっくりと考えて行動することや自分の思いを相手に伝えること、粘り強く取組むことなどには、課題を感じることもある。

指導者がサポートすれば力を発揮できるのだが、自分たちで主体的に行動するには、低学年の段階から、その方法を知り、経験を重ね、高学年へと成長していく過程を大切にしていけることが必要であると感じている。

（2）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校は平成 18 年に、児童数が減少した四條畷西小学校と北出小学校を統合して誕生した。校区は四條畷市の西端に位置し南北に広がる。北西部が寝屋川市、南西部が大東市と隣接している。

校舎 3 階からは、東側に飯盛山の山並みを望み、その変化から四季を感じることができる。また、西側には小さくはなったが田園風景が残り、大阪平野に沈む夕日が稲穂を茜色に染める景色は見事である。まだまだ、自然環境が豊かな地域に位置している。

校内には先人の植樹による樹木が多く生育し、季節ごとに生活科や理科の観察を行う児童の姿もよく見かける。卒業制作の人工池にはメダカが泳ぎ、畑には学習教材となる植物が植えられ、児童が日々、世話に励んでいる。校庭は広く、その端には過去にPTAが作成したタイヤランドやみどり山が存在し、児童のよき遊び場となっている。

②地域

地域には、昔ながらの村や住宅地がいくつか存在し、その伝統的な行事が季節ごとに行われ、児童が参加する姿もよく見かける。学校への関心も高く、協力を惜しまない雰囲気がある。しかしながら、時代とともに生活様式も変化し、様々な行事の継続なども難しくなっているようである。

③組織（教職員、PTA、保護者）

教職員は熱心に学校全体の課題や児童個々の困り感を共有し、児童に寄り添いながら家庭と連携して、学習指導や集団づくりに取り組む姿勢を大切にしている。

今年度よりPTAへの加入が任意加入となった。加入率は九割を超え、多くの保護者にその活動の必要性を感じていただいている。個々に理由があり未加入となった保護者も含め、本校に通う児童の望ましい成長をいかに担保していくか。今後の活動の方向性を、みんなで思いを一にして模索していきたい。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
加配教員・担当教員を核に学校の教育力の向上をめざす		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
【児童生徒・教職員アンケート】 （教職員アンケート） 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていましたか。 （児童アンケート） 自分で計画を立てて勉強（学習）をしていますか。（学校や家で）	最肯定回答の割合 （教員）40% 否定的回答の割合 （児童）30%	最肯定回答の割合 （教員）52% 否定的回答の割合 （児童）34%	○学校の教育力の向上をみとる項目として、これからの時代を主体的に切り開き、生き抜いていくにあたり必要となる力の育成を図る質問項目を選んだ。 指導者である教職員は目標とする達成基準を満たしているが、児童には、その成果が十分に反映されていない。 次年度に向けて、更なる取組みの工夫が必要である。
【児童生徒・教職員アンケート】 （児童アンケート） ・あなたの学級は授業中間違って笑われない。 【学校教育自己診断】 （児童アンケート14） 学校に行くのは楽しい。 （児童アンケート15） すすんであいさつをしている。	最肯定回答の割合 50% 肯定的評価 90% 肯定的評価 80%	最肯定回答の割合 51% 肯定的評価 82% 肯定的評価 78%	○担当教員を中心に、発達支持的生徒指導の視点を大切にした教育活動を展開し、児童にとって、安心安全な居場所づくりを意識した取組みを進めてきた。 取組みは、一定の成果を収め、「新規不登校ゼロ」を達成したが、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童の割合が、達成基準を下回ったことを重く受け止め、改善を図っていきたい。
【学校教育自己診断】 （児童アンケート19） 授業や行事、休み時間に運動することで、体力がついてきたと感じる。 （保護者アンケート15）	肯定的評価 85% 肯定的評価	肯定的評価 79% 肯定的評価	○教科担任制「体育」専科教員を中心に、体育科のカリキュラムを見直し、児童の運動経験を確保して、個々の体力向上をめざしてきた。 児童にその意識は少ないようだが、「体力テスト」などの結果から

学校は、授業や行事などを通して、子どもの体力向上に取り組んでいると思う。	90%	95%	は、確実にその成果が伺える体力向上をみとることができた。
--------------------------------------	-----	-----	------------------------------

目標設定区分2『学校組織の運営』			
A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
学校組織力の向上		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
【児童生徒・教職員アンケート】 （教職員アンケート） 学校の学校教育目標やめざす子ども像を意識して指導できている。 【学校教育自己診断】 （教職員アンケート5） 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全職員間で共有し、取組みにあたっている。	最肯定回答の割合 60% 肯定的評価 90%	最肯定回答の割合 57% 肯定的評価 96%	○教育目標や学校経営方針などの周知を徹底し、学校運営の方向性の明確化を推進することにより、教員同士の同僚性を高め、学校組織力の向上を図ることを狙いとして取り組んだ。 中核となる教員が先頭に立ち、主体的に活動することで、着実に学校の組織力が向上してきていることを実感している。
【学校教育自己診断】 （保護者アンケート17） 学校は、子どもの安全確保や事故防止に配慮している。 （教職員アンケート11） 授業の中でICTを有効に活用するよう努めている。 （教職員アンケート17） 人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、教職員間で共有している。 （教職員アンケート14） 支援教育について理解を深め、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行って	肯定的評価 95% 肯定的評価 80% 肯定的評価 85% 肯定的評価 95%	肯定的評価 94% 肯定的評価 100% 肯定的評価 96% 肯定的評価 100%	○教育目標や学校経営方針などの共有を図ることで、教員が担当する分掌のねらいが明確となり、各担当が創意工夫しながら、やりがいをもって、目標達成に向けた教育活動に取り組むことができてきた。 自然災害や不審者、アレルギーなどへの対応、GIGAスクール構想に基づくICT機器の活用、人権教育や道徳教育の視点、個に応じた支援などの質問項目において、教職員が共通の認識を高いレベルで示している。 各担当の発信力やそれに答えた教職員の取組みの成果を、継続

いる。			して児童の成長につなげていきたい。
-----	--	--	-------------------

目標設定区分3『人の管理・育成』			
A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
教職員の資質向上（働き方改革）とサービス管理		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
【児童生徒・教職員アンケート】 （教職員アンケート） 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。 【学校教育自己診断】 （教職員アンケート15） 指導の内容や方法について、学年で話し合う機会を持っている。	最肯定回答の割合 50% 肯定的評価 90%	最肯定回答の割合 43% 定的評価 100%	○教員が良好な教育活動を実施するための時間を確保するため、授業時数の見直しや校務分掌等の再編に取り組み、適切な人材育成に努めた。 教職経験年数に応じた職責を意識し、自身がめざすべき姿（教員力）の習得に努め、教職経験年数の少ない教員の育成（日常的なOJTの推進）について、学校全体で組織的に行う必要がある。
サービス規律の徹底や不祥事の未然防止について、職員会議等の機会を活用して周知徹底する。	実施回数 5 回以上	実施回数 8回	○同僚性の向上を図り、風通しの良い職員集団をめざすことで、お互いに声をかけやすい関係を育み、不祥事等の未然防止に努めている。今後も、お互いに認め合い、励まし合える職場環境づくりに努めていきたい。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』	
A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
家庭教育への支援と地域の教育コミュニティづくり	学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み	

項目	達成基準	結果	評価
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート4) 学校は、教育目標や指導方針を文書や通信などでわかりやすく伝えている。 (教職員アンケート21) 児童の様子について、家庭と連絡を取り合うなど連携している。	肯定的評価 95% 肯定的評価 100%	肯定的評価 94% 肯定的評価 100%	○生活基盤の確立は、子ども達にとって、学びに向かう大きな力となる。子ども達一人ひとりの生活背景に配慮しながら、学校での学習活動に家庭からの協力を得るにあたり、学校からの丁寧な発信は重要であると考えている。
地域とともにある学校づくりに係る組織の充実	学校運営協議会を中心とした活動の実施	学校運営協議会委員(PTA会長・民生・児童委員)と連携し、取組みの充実が図れた。	○学校がめざす教育目標やその取組みの方向性などをPTA、学校運営協議会、民生委員などを通じて発信し、保護者や地域と協力しながら学校教育活動の充実・進展を図ることができた。

5 学校関係者による評価(学校運営協議会等)

四條畷西中学校区のコミュニティ・スクール会議(学校運営協議会)において、本校の学校経営方針(学校教育目標・めざす学校像・めざす子ども像など)の報告を行い、その方向性について承認いただくことができた。

学校運営協議会委員のPTA会長をはじめとする本校の各役員さん方とは、役員会の中、「子どもたちを楽しませてあげたい」「保護者同士のつながりを深めたい」という思いを共有し、ボランティアを募って『くすのき小学校 お楽しみ会』や各学年の『親子交流会』を開催し、目的にせまる活動を行うことができた。

また、校外での子どもたちの生活の見守りについて、同じく学校運営協議会委員の民生・児童委員さんと連携を図り、くすのき小学校区の『民生委員連絡会議』を開催し、学校外の各地区での子どもたちの様子などについて、情報を共有することができた。校内だけでは気づけない地域での活躍ぶりを地域の方からの言葉として、児童集会で子どもたちに伝えることができた。

合わせて、会議の日程を本校の土曜参観日にすることで、会議終了後に委員の方々の授業参観の時間を設け、全クラスで実施している道徳授業などの様子を、保護者は勿論、地域にも発信することもできた。

これからも、保護者・地域・学校が一体となって子どもたちを見守っていく体制の構築に努めていきたい。

6 総合評価と次年度に向けて

「学校教育目標」を実現するため、学校経営の7つの観点を中心的な方針として今年度の教育活動を推進してきた。成果をあげることができた観点もあれば、思うようにいかなかったものもある。教職員と共に次年度の取組みに向けて丁寧な振り返りを行い、次年度の教育活動の更なる充実につなげていきたい。

今後もPTA役員さんをはじめとする保護者の皆様、各地区の自治会長さんや民生委員さんなど地域の方々、そして、学校が、子どもたちを中心に据えたつながりを大切にして、共に子どもたちの成長を見守っていく姿勢を共有し継続しながら、くすのき小学校区の教育活動の充実に向けて取り組みを推進していきたい。

